

株式会社アンテリオ

マーケティング調査の高度な統計処理を短期間で実装

オープンデータなどの多様なマスタと紐付け、調査精度を向上

医療業界に向けた多様なリサーチサービスを提供する株式会社アンテリオ（以下、アンテリオ）。同社は医薬品のプロモーション活動を調査・測定するサービスのシステムを刷新した。その際、医師からのアンケート回答データをクレンジングし、統計処理を施すシステムを自社開発できるよう「ASTERIA Warp」を採用。処理の変更を自社で迅速に対応できる使いやすい仕組みを実現したほか、既存システムに比べて処理性能も向上させている。

 Asteria⁺
warp
導入事例

Users Report

モニターとなる医師の協力の下
医薬品のマーケティング調査を実施

自社で扱える「使いやすさ」を念頭に
複数製品を組み合わせた仕組みを検討



株式会社アンテリオ
ファーマ・ソリューション事業部
ソリューション開発部長

佐藤 暢章氏
さとう のぶあき



株式会社アンテリオ
ファーマ・ソリューション事業部
ソリューション開発部
チームリーダー

奥長 ひろ子氏
おくなが ひろこ



●CORPORATE DATA

株式会社アンテリオ

医薬分野を専門とする市場調査会社として1994年に設立。2007年に株式会社インテージ（現インテージホールディングス）の傘下となる。医薬品の製品ライフサイクルに応じたカスタムメイド調査や、契約会員企業向けサービス（シンジケート商品など）を展開している。従業員数130名（2015年5月現在）。

本社所在地 ●東京都千代田区神田練堀町3番地
インテージ秋葉原ビル

URL ●<http://www.anterio.co.jp/>

医療現場で使われる医療用医薬品、市販の一般用医薬品をはじめ、ヘルスケア領域の多様な製品・サービスを対象としたマーケティングリサーチ事業を行うアンテリオ。同社は、全国の医師を対象にアンケートを実施。依頼に応じた切り口の調査レポートを作成し、製薬企業各社に提供するサービスを展開している。

中でも「Impact Track」は、医療用医薬品のプロモーション効果測定に特化した調査サービス。「製品をどこで知り」「MR（医療情報担当者）がどんな説明を行い」「説明内容はどうだったか」などに関する情報を医師から収集・分析し、週次で顧客に提供するものだ。具体的には、まず全国のモニターの医師がWebアンケートに回答。それを、同社があらかじめ保有する「商品名」「メーカー名」「回答した医師の専門分野」などのマスタデータと関連付けて分析したのち、指定URLでの公開などによって提供する。

しかし同社は近年、この一連の処理を担うシステムに課題を感じていたという。

Impact Trackのサービスを高度化するには、回答項目を随時見直し、時流に合った調査を行うことが欠かせない。ところが従来は、外部Slerに委託しスクラッチ開発したシステム上で運用しており、少しの改変にも多大な時間とコストが必要な状態だった。「質問を1つ追加するだけで1年近くかかる状態でした。とはいえ、スクラッチ開発のシステムは、開発したSler以外が扱うことは難しいもの。サービス高度化には、自社で改変できる標準化された仕組みが必要だと感じていました」と同社の佐藤 暢章氏は振り返る。

そこで同社はシステムの刷新を検討。既存のスクラッチシステムから、BIツールをはじめとした複数のパッケージ製品を組み合わせた仕組みへ移行することを決めた。

「製品選定時は、専門のIT担当部門を持たない当社も扱える『使いやすさ』を最も重視。これにより、設定などが自社ですぐ変更でき、時流に合ったサービス提供のための改善が図りやすい仕組みを目指しました」と同社の奥長ひろ子氏はシステム要件を説明する。

この方針の下、同社は複数のベンダー／Slerに提案を依頼。検討の結果、TIS株式会社が提案したウイングアーク1stの集計・分析プラットフォーム「Dr.Sum EA」、およびBIダッシュボード「MotionBoard」を中核としたシステムを、最も要件に合うものとして採用した。

その際、もう1つのポイントになったのが、医師の回答データをDr.Sum EAに渡すETLツールである。これについて奥長氏は次のように話す。

「回答データは一度、専用のデータベースに蓄積。分析時に取り出してクレンジング、マスタデータとの関連付けや統計処理、体裁の加工を行います。これらの処理は、分析目的に応じて柔軟に変えていく必要があります。そこで当社は、設定変更が容易なETLツールを使うのがよいと判断。最終的にアステリアの『ASTERIA Warp』を採用しました」

その際の決め手は「使いやすさ」だった。ASTERIA Warpは、アイコンのドラッグ&ドロップだけでデータ加工フローを構築可能。専門的なIT知識を持たないスタッフも直感的

に扱うことができる。また、Dr.Sum EA用のアダプタが提供されており親和性が高い点や、インテグレータのTISが構築ノウハウを豊富に備えていた点も採用の後押しになったという。

「この仕組みなら、Impact Trackの一連のデータの流れを自社開発できます。万一の不具合にも、素早く対応できる仕組みが実現できると考えました」と佐藤氏は話す。

**時流に沿った調査方法を柔軟に実施
データ処理の時間も約1/2に短縮**

新システムは、TISの強力な支援もあり短期間で開発完了。その概要は次のようなものだ。

まず、約4,000名の医師がWebブラウザのフォームから入力・回答したデータを、ASTERIA Warpが取得しCSV形式に変換。次に、先に紹介した各マスタデータなどに関連付けながら、データのクレンジング、統計処理、データ加工処理を実行する。その後、Dr.Sum EA上で分析処理されたのち、MotionBoardでビジュアル化が行われる。「クレンジングには100以上の処理が必要ですが、現在は、



TISのアドバイスも受けながら、これらの仕組みを自社で開発・運用。当初の想定どおり、特定担当者に依存せず使いこなすことができます」と奥長氏は満足感を示す。現在までに150本のASTERIA Warpのフローを開発し、うち100本は週次処理に使われているという。

また統計処理の過程では、厚生労働省が公表している「エリア・診療所別の医師数」に関するオープンデータもASTERIA Warpで取得。それを基に「拡大推計処理」を行うことで、製薬企業に提供する分析結果の精度を

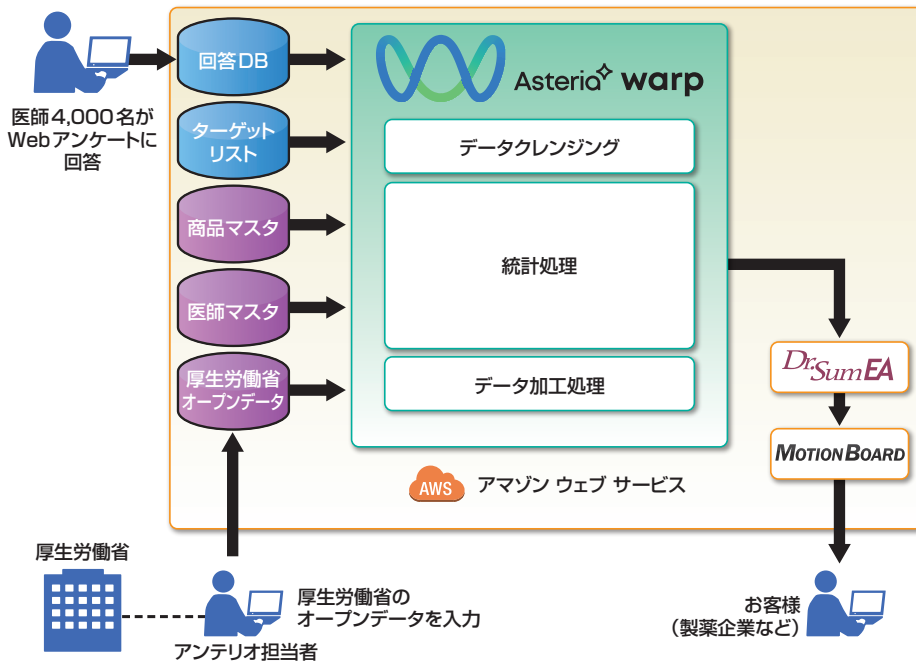
向上させている。この拡大推計とは、調査対象データの母数の偏りを、基準となるデータに合わせて補正する処理のこと。「以前から行っている処理ですが、ASTERIA Warp導入後は、アンケートとオープンデータのCSVファイルを紐付ける作業もノンプログラミングで行えるようになりました。ビジュアルなフロー画面で複雑な処理も簡単に手直しでき、とても助かっています」（佐藤氏）。

さらに、システムの処理性能も向上した。Impact Trackが扱うデータ量は、1回のバッチ処理につき約2万レコード。その処理開始からレポート出力までの時間は、以前の1/2程度に短縮できているという。「データは毎週火曜に回答を締め切り、木曜に提供しています。以前は、数値データの処理の後にテキストマイニングを行うと全工程で丸2日間を要し、少しでもトラブルがあるとテキストマイニングの処理が木曜日の朝までに終わらないリスクがありました。それが現在は全工程を1日で処理できるようになり、提供前のチェックを余裕を持ってできるようになりました」と奥長氏は言う。

今回の成功を踏まえ、同社はASTERIA Warpを他のサービスでも活用していく考えだ。「今回の仕組みを適用することで、現在集計を進めている別の調査結果を1カ月前倒して提供できないか調整中です。ASTERIA Warpの扱いやすさとパフォーマンスがあれば、実現可能だと考えています」（佐藤氏）。

ITの活用により、医療業界に欠かせない調査サービスを提供するアンテリオ。同社のサービスを、ASTERIA Warpはこれからも支えていく。

システム構成図



Asteria
アステリア株式会社
<https://www.asteria.com/>

〒140-0014 東京都品川区大井1丁目47番1号 NTビル1F
 TEL. 03-5718-1250

このカタログに記載された情報は2015年8月現在のものです。内容は予告なしに変更することがあります。Asteriaはアステリア株式会社の登録商標です。その他、各会社名、各製品名は、各社の商標または登録商標です。

©2020 Asteria Corporation

お問い合わせ先：